

「愛知県震度観測・調査研究結果 - 第 2 2 報 - の概要

愛知淑徳大学教授 太田 裕

1 調査の概要

地震動の伝わり方と地震動の地域特性を明らかにするため、県内全市町村で設置している計測震度計等による震度情報ネットワークの震度観測データを活用して、平成 14 年に発生した地震と震度に関する調査研究を実施した。

また、トピックスとして、直下型地震と海溝型地震の揺れの特徴及び震度と地震被害の関係についての検証結果を報告する。

2 愛知県震度観測・調査報告書 - 第 2 2 報 - の概要

(1) トピックス

ア 震度 6, 7 体験記の教訓 - 直下型地震と東南海型地震の違い -

濃尾地震に代表される直下型地震と東海、東南海地震で注目されている海溝型地震では、同じ地震であっても地盤の揺れ方は異なる。これらの地震の特徴を過去の体験談や記録から検証した。

直下型地震は、初動から激しい揺れに襲われ、逃げる間もないこと、東南海型地震は、穏やかに始まり揺れの継続時間が長い、という特徴が体験談からも検証できた。

イ 近年の地震でみる高震度領域の被災と影響の事例

どの程度の揺れが、どの程度の被害・影響をもたらすかについて、「震度」を基準に、近年の地震事例を提示しながら検証した。

「同一の震度では同一の被害」を想定することで大きな間違いはなく、このような簡潔な情報を最大限生かして、防災対応を円滑に運営することが望まれている。

ウ 平成 14 年の主要地震

国内では、震度 6 弱を越える地震は発生しなかった。震度 5 弱の地震は 5 回発生しているが、いずれも軽傷者 1 ~ 2 名で、死者は発生していない。

世界では、M8 以上又は死者 10 名以上の地震が 10 回発生しており、3月 25 日にアフガニスタンで発生した地震では、死者 1 千名以上、負傷者数百名以上という非常に大きな被害となった。

(2) 愛知県内・近郊の震度観測資料

平成 14 年中に、県内のいずれかの市町村で、震度 1 以上が観測された地震は 40 回発生したが、震度 4 以上の地震は発生しなかった。

3 防災への活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、閲覧できるようにすることにより、地震についての理解を深めてもらうために活用する。